創刊によせて

発達教育学部長　吉　村　　英

平成16年４月より京都女子大学に，第４番目の学部として発達教育学部が発足しました。発達教育学部は昭和31年に設置され昭和39年に改組された文学部教育学科と，昭和24年に設置された家政学部児童学科を母体として，新しい時代の潮流に応えるべく，生まれ変わった学部です。また昭和31年に設置された短期大学部初等教育学科では，幼稚園二種，小学校二種の教職課程に加え，平成16年には保育士養成課程が認可されました。

このような改組に伴って，これまでそれぞれの学科で教育研究の重要な基盤となってきた研究紀要も，新しい時代に対応すべく１つに統合され，発達教育学部紀要として生まれ変わることになりました。

これまでは教育学科というと幼稚園や小学校の先生を養成する課程，また児童学科というと幼稚園の先生や保育士を養成する課程というイメージが強く，学部も文学部と家政学部に分かれていました。しかし現在子どもを取り巻く環境は，大きく変化してきています。価値観の多様化や情報化の著しい進展，さらに少子高齢化と家庭崩壊現象という社会状況の中で，これまでの枠組みを超えたより広い観点からの総合的なアプローチや研究が必要となってきています。

このような社会的要請に応えるために，発達と教育の問題を縦軸方向にも横軸方向にも広げ，深く探求していくことをめざして発達教育学部が生まれました。縦軸方向の拡大とは，人間の発達をその原点である生命の始まりから乳幼児期，学童期，青年期，成人期を経て，高齢期にいたるまでのライフサイクルの中で，教育的，文化的，心理学的意義の探求を行おうとするものです。また横軸方向の拡大とは，人間の教育を学校組織の中だけで考えるのではなく，家庭，学校，地域というより広い枠組みの中で捉えなおそうというものです。短期大学部初等教育学科に保育士養成課程が設置されたのもこのような考えに基づくものです。つまりこれまで別々に論じられてきた家庭教育，学校教育，社会教育を相互に関連づけ，人間としての発達と生き方にかかわる営みとして統合しようというものです。

この目的を達成するためには，従来からの研究に加えて新しい観点からの研究が求められているといえましょう。これまで教育学科と初等教育学科では，教育学会を母体として44号にわたる「教育学科紀要」を刊行し，教育学関連諸領域の研究を蓄積してきました。また児童学科では，34号にわたる「児童学研究」を刊行し，児童学関連諸領域の研究を蓄積してきています。今後はこれまでの研究成果を基盤としながらも，教育学諸領域と児童学諸領域がお互いに刺激を与え合い，融合することによって，新しい時代の社会的要請に応えうる研究成果を積み重ね，社会に貢献することが重要となってくるでしょう。

「発達教育学部紀要」がこれまで以上に活発な発表の場となり，教育や研究に活力を与え，ひいては社会に多大な貢献をなすことを願って止みません。